

# 令和7年度全国学力学習状況調査の結果

全国の6年生を対象に実施されました「令和7年度全国学力学習状況調査」について、結果がまとまりました。この調査では、学力調査（国語・算数・理科）と児童への質問調査（学習面・生活面など）が行われました。本校の子どもたちの状況をお知らせします。

## 総合結果

本校児童の結果を全国平均と比べてみると、算数は全ての領域・評価の観点で上回り、国語・理科は教科全体としては上回る結果となりました。

### 国語科より

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題では高い回答率でした。また、他の図表を用いた問題でも力を発揮しています。しかし、語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題等に課題がありました。

### 算数科より

全体的にできていますが、以下の分野が少し気になります。

- ・はかりの目盛りを読むこと
- ・数直線上に示された数を分数で書くこと
- ・示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算すること

### 理科より

「知識・技能」「思考・判断・表現」等、全体的にできています。しかし、3・4年生の内容や文章全体を読まないと正答がわからない問題等で回答率が低くなっていました。

### 児童質問紙より

児童質問紙の「総合的な学習の時間では、自分で課題を立て情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」との問い合わせに約87%の児童が当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）と回答しています。上記の総合結果でも述べたように、総合的な学習の時間に培った力が国語の問題でも発揮され、資料を活用して文章を書くことなどができていました。得意をいかす、培った力を存分にいかすなど、頑張っていることを自信につなげていけるよう、さらに授業を構築していきたいと思います。

本校では、「向上心をもち、真面目にコツコツと仲間と共に高め合う子の育成」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆さまのご協力を得て、取組をすすめています。

子どもたちには、今年度も「会話のキャッチボール」を合言葉に、会話における相手を思いやった言葉のやりとりの大切さを伝えています。そして、自分の思い（ボール）を話すこと（スロー）からではなく、まずは相手の思いを受け止めること（キャッチ）から始めることで、次のようなことを実現したいと思っています。

- ・相手の思いをしっかりと受け止め、相手の自己肯定感を高める。
- ・相手の思いを受け止めようとする意識、すなわち人権意識を育む。
- ・人間形成力を育てる。
- ・温かい空気がいつも漂う学校にする

これらの力の育成は、学校だけでなく、あらゆる場をフィールドとしてとらえ、幅広く身につけていくことがとても重要です。

質問紙では、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という問い合わせに対して、「あてはまる（「どちらかといえば、あてはまる」を含む）」という回答率が、全国平均を大きく上回っていました。自分の思いや考えをもちつつも、違う考え方や意見に耳を傾け、いたん受け入れて考えることは、簡単なことではないと思いますが、それを楽しもうとする姿勢はすばらしいです。まさに、上記で述べた4つの力が育まれてきているのだと感じました。柔軟な考え方から、新たな気づきや発見があったり、豊かな発想が広がったりします。友達と共に会話のキャッチボールを楽しみ、自己肯定感や人権意識をさらに高めてほしいと思います。

今後も、様々な学習や体験活動等を通して、子どもたちの学びと育ちを支えていけるよう、取組を進めています。

### 保護者の皆さまへ



全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していきます。また、基本的な生活習慣や日々の学習習慣が、学力の基盤となります。今後とも、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

